

# 福祉 ぐんま

NO.237  
2011 夏号

 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会



## ■主な内容

- \*特集 東日本大震災……社協は……2~3
- \*平成22年度事業報告・決算……4~5
- \*会長、常務退任挨拶……5
- \*ボランティア情報……6~7
- \*会長、常務新任挨拶……8
- \*素敵な笑顔……8

伊勢崎市地域活動支援センター  
櫻井 勇基さん  
(関連記事は3ページに掲載)

「福祉ぐんま」の作成経費として共同募金配分金を使用しています。

# 災……社協は

関東Aブロックに属する本県は、3月19日より福島県の支援のため職員を派遣しています。派遣は、県社協1名と市町村社協1名の2名1組で、4月23日までは1クール4泊5日、4月22日より1クール5泊6日、派遣先は4月14日までは福島市へ、4月13日より南相馬市へ行っております。7月1日現在、延べ322名の職員を派遣。この職員派遣は8月末まで実施予定です。

また、今回の災害により生活の資金に困窮している被災者へ、社協が20万円を限度に貸付を行う「生活福祉資金緊急小口資金特例貸付」への現地対応スタッフとして4月3日〜4月29日まで、全社協の要請により、災害ボランティアセンター支援派遣とは別に、福島県内の各地へ延べ56名の職員派遣を行いました。

その他、全社協による災害支援プロジェクトメンバーが、全国ブロックによる前述の職員派遣とは別に、被災地ボランティアセンターへ支援に入っています。これは、全社協が大規模災害に備え、開講してきた災害ボランティアセンター運営支援者研修既受講者への依頼で、本県からは5名の市町村社協職員がメンバーとして、3月21日より数回派遣され支援を行っていただきます。

全国の都道府県社協は、災害時に相互に協力するため、全国を6ブロックに分け、ブロック内で対応をする協定を結んでいます。

しかし、3月11日に発生した東日本大震災では被災範囲が広く、東北ブロック内だけの対応が不可能でした。そこで、被害の大きかった岩手県、宮城県、福島県には、全社協による調整のもと、ブロックごとに支援担当県を定め、全国各地の社協から応援職員が現地へ入り、地元の社協職員と災害ボランティアセンターの運営等にあたることになりました。

**群馬県社協の支援活動について紹介します。**

〈東北3県で活動している全国各地の社協からの応援職員の状況〉

活動区分	岩手県	宮城県・仙台市	福島県
支援担当ブロック等	北海道、青森県、秋田県、 関東Bブロック、 東海北陸ブロック	山形県、 近畿ブロック、 中国四国ブロック	<b>関東Aブロック、</b> 九州ブロック

## 福祉バス「愛の募金号」災害支援派遣



県からの依頼を受けて、宮城県に派遣する本県の介護職員の送迎を福祉バス「愛の募金号」で行いました。

ガソリン不足、悪路の中、3月25日から4月6日まで計3回、延べ約90名、運行しました。

## 県内における支援活動

県内各地で地震・津波・原発の避難者を受入れたことで、県社協職員も3月20日から土日なく避難所を巡回し、状況の確認を行いました。

避難所のある市町村社協は、避難されている方がよりよく過ごせるよう、ニーズを確認し、やみくもに支援するのではなく

く、住民の皆さんとともに試行錯誤しながら避難所の支援をしています。避難者への生活福祉資金緊急小口資金特例貸付の対応も行っています。

また、避難所だけでなく、県内で集まった支援物資の仕訳作業、託児などでも県内でボランティアが活躍しました。

# 特集 東日本大震災



## 県社協の動き

- 3月11日 東日本大震災  
全社協より1報
- 3月12日 県内の被災状況の確認  
関東Aブロック社協における災害時の相互協定に基づき、現地確認に向かった幹事県社協の報告を待つ
- ～13日 関東Aブロック幹事県社協より1報、刻々と変わる情報を群馬県健康福祉課と共有
- 3月14日 職員派遣に向け、資材の確認  
被災範囲が広範囲のため、東北ブロック内での対応が不可能と連絡がある  
東北、関東A B、中部、関西、近畿、九州全てのブロックより職員を派遣し、  
現地ボランティアセンター立ち上げを支援する方向  
現地への派遣は、県社協1名、市町村社協1名とするため、市町村社協へ依頼を行う
- 3月18日 全社協より正式に福島県へ派遣依頼が入る  
職員派遣の車両2台を緊急車両として県警へ登録
- 3月19日 第1クール職員を福島市災害ボランティアセンター（3/19現在、福島市役所内）へ派遣  
1クール5日間、県社協1名、市町村社協1名の2名1組
- 3月20日 県内避難所の状況を確認するため、職員が避難所の巡回を開始  
地元市町村社協が中心となり避難所へのボランティア活動が開始
- 3月21日 全社協より直接依頼の災害支援プロジェクトメンバーとして市町村社協職員が現地へ入る
- 3月23日 第2クール職員を派遣  
現地・福島市社協保有の車がガソリンがないと連絡があり、ガソリンを40L持参
- 3月25日 宮城県へ介護職員を送迎するため福祉バスを運行  
群馬県が窓口となり集めた支援物資の仕分け作業等の依頼があり、ボランティアが活動実施
- 3月26日 第3クール職員を派遣
- 3月29日 第4クール職員を派遣
- 4月1日 第5クール職員を派遣
- 4月2日 宮城県へ介護職員を送迎するため福祉バスを運行（2回目）
- 4月3日 生活福祉資金受付対応・第1クール職員を本宮市へ派遣  
（1クール7日間、県社協1名、市町村社協1名の2名1組）
- 4月4日 第6クール職員を派遣  
派遣先の福島市災害ボランティアセンターが市役所から福島市社協の建物に移転
- 4月6日 宮城県へ介護職員を送迎するため福祉バスを運行（3回目）
- 4月7日 第7クール職員を派遣
- 4月10日 第8クール職員を派遣  
生活福祉資金受付対応・第2クール職員を相馬市へ派遣
- 4月13日 第9クール職員を派遣  
依頼に基づき派遣先を福島市より南相馬市災害ボランティアセンターへ変更  
南相馬市社協より依頼のあった土のう袋、デッキブラシ等を持参
- ⋮
- 7月1日 第29クール職員 派遣中（8月末まで派遣予定）

# 平成22年度事業報告・決算概要

本会では、多くの各種関係機関・団体等の参加をいただき、「県民だれもがともに支え合い、住みなれた家庭、地域で、その人らしく安心して暮らせる福祉社会の実現をめざす」ということを目標に掲げ、様々な事業を展開してきました。以下、その概要を報告します。

## ■ 主な実施事業

### 1 福祉マンパワーの確保と福祉関係職員の研修充実

① 福祉人材無料職業紹介事業の運営

- ・新規求人数 6,526名
- ・新規求職者数2,757名
- ・紹介数793名・応募数1,553名
- ・就職数432名
- ・「福祉マンパワーニュース」の発行 年6回

② 福祉・介護人材確保対策事業の実施

複数事業所連携事業、職場体験事業、福祉・介護人材定着支援事業、福祉・介護マツチング支援事業

③ 福祉人材確保相談事業の実施

相談件数2,466件

④ 群馬県民間社会福祉施設等職員共済制度の実施

957施設15,311名加入  
 ⑤ 福利厚生センター事業の実施  
 98法人・200事業所  
 加入職員数3,332名

⑥ 福祉関係従事者に対する研修の企画・実施 直営研修コース11コース、延べ開催日数101日  
 研修参加者 延べ2,923名  
 ⑦ 介護支援専門員実務研修受講試験の実施  
 受験者数2,204名  
 合格者数 458名

⑧ 介護職員等確保対策事業の実施  
 ⑨ 介護福祉士等修学資金貸付事業  
 貸付123名 181,000千円

### 2 日常生活自立支援事業の推進

① 認知症高齢者等福祉サービス利用支援事業にかかる援助体制の整備  
 ・12基幹社協に一部委託  
 ・利用契約締結数 22年度225件  
 (累計1,745件)

② 22年度未実利用契約者数803名

### 3 福祉サービス運営適正化委員会

① 福祉サービス運営適正化委員会  
 本会議の開催 2回  
 ② 福祉サービス運営適正化委員

会選考委員会の開催 1回  
 ③ 福祉サービス利用援助事業運営監視部会の開催 2回  
 ④ 福祉サービス苦情解決部会の開催 5回  
 ⑤ 苦情相談の受付件数97件(苦情55件、相談42件)  
 ⑥ 巡回訪問の実施延べ30か所  
 ⑦ 福祉サービス苦情解決セミナーの開催 1回338名参加

### 4 福祉サービス第三者評価事業

① 運営委員会の開催 1回  
 ② 拡大合同専門委員会の開催 1回  
 ③ 評価調査者継続研修会開催 1回 28名

④ 第三者評価契約締結施設 5施設

⑤ 啓発事業、説明会の開催 3回  
 ⑥ 出張相談 4施設

### 5 児童・高齢者虐待等の防止、早期発見に向けた取り組み

① 障害者に対する虐待防止、権利擁護の推進  
 ・障害者110番事業の実施  
 相談件数 180件

② 心配ごと相談所中央センター事業 相談件数40件

③ 関係機関との連携 研修会等への参加 10回

④ 暴力や虐待を考える県民のつどい事業  
 ・虐待(障害者・高齢者・家庭

に潜む子どもの虐待とDV)防止セミナーの開催 3回538名参加

### 6 地域福祉の推進

① 市町村社協地域福祉活動計画の策定支援 策定済14社協  
 ② 住民支え合いネットワーク事業 1社協モデル地区指定  
 ③ 福祉コミュニティネットワーク活性化事業 4社協モデル地区指定

④ 住民支えあいセミナーの開催 140名参加  
 ⑤ 福祉で地域づくり推進セミナーの開催 57名参加

⑥ ふれあい・いきいきサロン活動数 1,745か所  
 ⑦ 課題解決型サロンモデル事業 2社協モデル地区指定

⑧ 市町村社協トップセミナーの開催 140名参加  
 ⑨ 歳末たすけあい運動の実施

### 7 生活福祉資金貸付事業の実施

① 生活福祉資金貸付事業 貸付決定 1,485件  
 508,045,051円

② 不動産担保型生活資金貸付事業 貸付決定 2件  
 23,870千円

③ 要保護世帯向け長期生活支援資金貸付事業 貸付決定 14件 85,395千円

④ 臨時特例つなぎ資金貸付事業 貸付決定 56件 3,086千円

### 8 ボランティア・市民活動の推進と福祉教育の充実

① ぐんまボランティア・市民活動支援センターの運営

② ボランティア情報・相談コーナーの設置運営  
 月々金曜日午前9時～午後5時

③ ぐんまボランティアフェスティバル利根沼田ブロックの開催 1,500名参加

④ 福祉教育(学童・生徒のボランティア普及事業)

・社会福祉協力校指定15校  
 ・地域指定福祉協力校モデル事業 3地区

⑤ 関東ブロックボランティア活動推進連絡会議の開催83名参加

⑥ 保護児童・交通遺児への就学援助金の給付

⑦ 介護等体験受入調整事業  
 ・体験申込大学等48大学・短大  
 ・体験実施者682名、229施設で受入

⑧ 災害支援セミナーの開催30名参加

⑨ 東日本大震災に伴う被災地支援  
 福島県災害ボランティアセンターに延べ42名派遣

### 9 社会福祉施設の運営指導及び連絡調整

① 施設関係団体の活動支援と連絡調整

② 社会福祉施設の地域貢献事業  
 ・公益的な取り組み事例集の作成

③ 法人・施設運営指導

④ 群馬県青年経営者会の設立  
 ⑤ 民間社会福祉施設等関係者の

## ◎ 退任ごあいさつ

前会長 宮下 智満



厳しい暑さが続いておりますが、皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。さて、私こと、このたび6月30日付をもって群馬県社会福祉協議会会長を退任いたしました。

平成17年7月に就任以来6年間にわたり多くの皆様に変化の激しい時代で、その変化への対応に追われっぱなしであったような気がいたします。

この6年間、福祉の分野も本当に変化の激しい時代で、その変化への対応に追われっぱなしでは、家族や社会の絆が薄れ、支え合い機能が低下する中で、公的サービスだけでは対応できない様々な生活課題が増加しており、社協関係者には、これらの課題に対応した取り組みの推進役としての役割を果たしていくことが強く求められております。そうした情勢認識のもとに、今年の3月、懸案であった県社協の今後5年間の活動推進計画を策定することができました。これが一つの指針となつて「県民だれもがともに支え合い、住みなれた家庭、地域で、その人らしく安心して暮らせる福祉社会」が一日も早く実現することを心から念願しております。長い間本当にお世話になりました。

## ◎ 退任ごあいさつ

前常務理事 深堀 充



私は、平成15年4月から、県社協の常務理事、事務局長として大変お世話になりました。

また、その前の平成6年7年の2年間はボランティア振興課長として、合計10年間皆様に大変お世話になりました。改めてお礼を申し上げます。県社協にお世話になって、民生委員さんを初め福祉関係の方、ボランティア関係の方、福祉施設等関係の方々等、多くの人にお世話になりました。

改めて振り返りますと、40数年の勤め人生活の内の30年を福祉関係に身を置いて来て、その間に福祉関係制度も大きく変わりました。そして、それぞれの場所でも多くのすばらしい方々と出逢いました。詩人・作家である相田みつを氏の言葉に「出逢い」と云うのがありますが「出逢い、その時の出逢いが人生を根底から変えることがある、よき出逢い。」と云っています。私も振り返って思いますと、いろいろな場面で多くの出逢いがありました。私の中で宝物になりました。

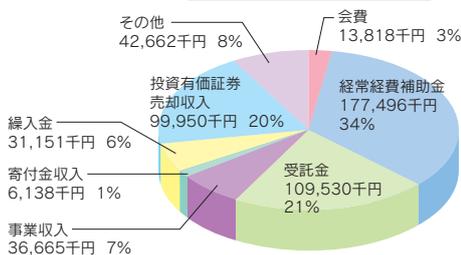
今後は、この宝物を大切にしながら、地域社会の一員としてお世話になりながら、楽しく、有意義な生活を心掛けたいと考えております。

今後ともよろしくお願いたします。大変お世話になりました、ありがとうございます。

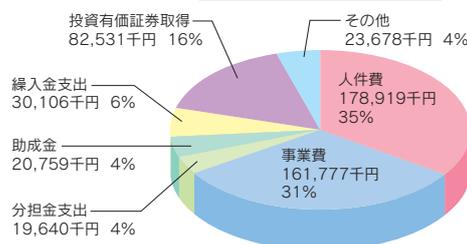
## ■ 決算

### 1 一般会計資金収支計算書

収入 517,410千円

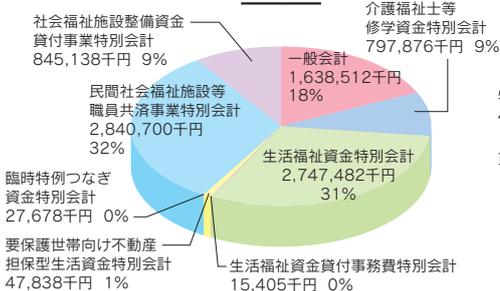


支出 517,410千円

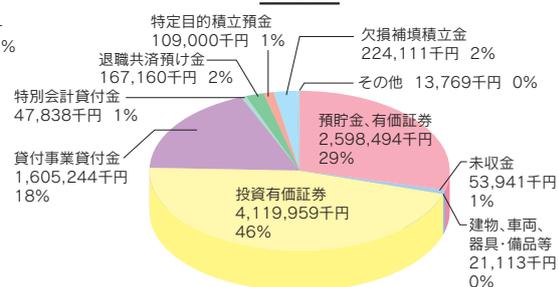


### 2 資産構成 (総資産額8,960,629千円)

#### 会計別



#### 科目別



① 広報紙「福祉ぐんま」発行

### 10 広報活動の充実

海外研修 10月31日～11月7日ドイツ・フランス20名参加  
 ⑥ 群馬県民間社会福祉施設整備資金貸付事業 貸付決定5件 75,000千円

④ 福祉バス「愛の募金号」の運行

### 11 その他の事業

② ホームページの運用 年4回

① 県社協活動推進計画の策定  
 ② 事務局フロアー整備  
 ③ 社会福祉振興基金事業の実施

# Hello! ボランティアセンター

## 渋川市社会福祉協議会ボランティアセンター



平成23年4月から渋川ほっとプラザ2階に渋川市社会福祉協議会ボランティアセンターを開設いたしました。

社協ボランティアセンターでは、ボランティア相談、ボランティア育成、福祉学習支援、福祉車両貸出、在宅福祉移送サービスなどを実施しております。また、より多くの方に身近に感じていただけるように、開設記念講演会の開催や社協ボランティアセンターの愛称募集したりと、市民に知っていただけるような取り組みをしています。今後は、

ボランティア登録を開始し、より多くのボランティアの発掘と多くのコーディネートを手掛け、ボランティアや組織をつなぎ、出会い・学び・協働を生み出せるような場所を目指しています。

既存の事業をより充実させ、様々な取組やボランティア活動の推進に努めてまいりますので、応援をよろしくお願いいたします。

**渋川市社会福祉協議会ボランティアセンター**

〒377-0008 渋川市渋川1760-1 渋川ほっとプラザ2階

TEL 0279-20-1112 FAX 0279-25-1721

# ボランティア情報

## ぐんま学生ボランティアネットワークの取り組み

### 今、私たちに出来ること

3月11日に発災した「東日本大震災」を受け、群馬県内の多くの大学生たちが何か支援を行いたいとの思いから“ぐんま学生ボランティアネットワーク”に参画するようになった。

同ネットワークは平成18年4月に発足。現在、県内10大学（短大・専門学校を含む）・約80名の大学生がボランティアとして会員登録し、学生の立場で支援できることを自分たちで考え、地道な支援活動に取り組んでおります。

今までに『こいのぼりプロジェクト』、『母の日プロジェクト』、『父の日プロジェクト』等、記念日を活用した支援を実施してきました。

また、毎年実施していた県内小学生の宿題をサポートする『夏休み！子ども宿題塾』を県内への避難者の方も対象とし、実施します。

今後は市町村社協等とも連携しながら、ボランティア活動をととして出来ることで尽力していきたい。



### 主な取り組み

- 〈福島県へ〉・南相馬市（託寺）へのこいのぼり寄贈  
（『こいのぼりプロジェクト』）
- ・相馬郡新地町でのボランティア活動
- 〈群馬県内〉・救援物資の仕分け・積み込み支援
- ・県内避難所での託児ボランティア
- ・県内避難所へ『母の日』の記念品贈呈事業  
（ティッシュケースとカード）（『母の日プロジェクト』）
- ・県内避難所へ『父の日』の記念品贈呈事業  
（手づくりうちわ）（『父の日プロジェクト』）
- ・避難者同士の集いの運営ボランティア
- ・街頭募金等の取り組み

# 社会福祉協力校 桐生市立広沢中学校

## 1. 福祉教育の目標

本校では「思いやりのある生徒」の育成を目指し、地域の協力を得ながら豊かな体験活動を推進しています。活動目標として、①福祉に対する理解と関心を高め、率先して奉仕する態度を養うこと、②奉仕する態度などの道徳的実践力を培うことを設定しています。家庭や地域との連携、学校行事などを通して人との



交流を図りながら福祉に対する心を育んでいきたいと考えています。

## 2. 取り組み内容の紹介

### (1) 福祉体験活動

全学年で市総合福祉センターに出向き、福祉講話、車いす・ブラインドウォーク、手話、点字、要約筆記などの体験学習を行っています。生徒はこの体験活動を通して、

障害をもつ方々の立場や気持ちを理解し、福祉について関心を高めることができています。

### (2) 地域活動

生徒会主催による「広沢中クリーンアップキャンペーン」という地域の清掃活動を実施しています。そのほかに公民館夏祭りのボランティアを行っています。生徒が地域の方々と一緒に準備や片付け、模擬店での

販売に参加します。地域の方々とふれあいを通じて、地域に貢献しようとする態度の育成につながる恒例行事となっています。

### (3) その他

第2学年で高齢者福祉施設や幼稚園、保育園で3日間の福祉体験学習の実施や、特別支援学校を訪問しての交流活動や、校内弁論大会、校内合唱コンクールに特別支援学校の生徒を招待しての交流活動などがあります。

## 3. 3カ年の成果と課題

さまざまな体験活動を通して生徒は「福祉」ということを身近なものとして捉え始めています。家庭や地域との連携、学校行事などを通して人との交流を図るなかで「思いやりのある生徒」の育成を目指した活動を実施することができました。今後も、この取り組みを行事や体験としての福祉活動だけで終わらせることがないように生徒一人一人の道徳的実践力を高めていきたいと考えています。そして、地域の一員としての自覚のもと、地域社会に参加できる生徒の育成にむけ、家庭・地域との連携を一層深めていきたいと思えます。

# ぐんまボランティアフェスティバル

## 東部ブロック

平成18年に実施した「第15回全国ボランティアフェスティバルぐんま」の成果をより確実なものとし、県下における地域ボランティア活動の一層の振興を図るため、ボランティア関係のメイン行事として県下各地域(5ブロック)持ち回りにより、群馬県独自のボランティアフェスティバルを開催し、県内のボランティア、NPOなどの交流・研究の場を設け、新たなネットワークの構築・形成を目的として実施します。

県内一巡の第5回目となる本年は太田市の藪塚本町文化ホールを会場として、「笑顔のかけ橋～つなげよう今、そして未来へ」とのテーマの下、本フェスティバルを開催します。

**期日** 9月3日(土)

**【ふれあい広場】** <10:00~15:00>

**内容** ボランティア活動紹介、模擬店など

**【分科会】** <13:00~15:00>

**内容** 健康や災害、地域の居場所づくりなどを考える分科会を予定。

**【記念講演】** <10:00~12:00>

**テーマ** 「東日本大震災で思うこと」(仮題)

### <お問い合わせ先>

ぐんまボランティア・市民活動支援センター  
〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町13-12  
群馬県社会福祉協議会内  
TEL 027-255-6111 FAX 027-255-6444

### ○新任ごあいさつ

くだれもがともに支え合い安心して暮らせる群馬県をめざして

会長 下城 茂雄



このたび、7月1日の理事会において、群馬県社会福祉協議会の会長に選任されました下城茂雄でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は38年間県職員を務め、福祉関係の業務にも携わってまいりましたが、特に、昨年3月の退職時には健康福祉部長を務め、6月末までは群馬県社会福祉事業団の理事長を務めさせていただきました。こうした中、地域福祉推進の中核的な役割を担う群馬県社会福祉協議会の運営に参画できまことは、大変うれしく存じますとともに、責任の重さにあらためて心の引き締まる思いであります。

さて、このたびの東日本大震災と原子力発電所の事故により、我が国は大変な状況にあります。あらためまして、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に対し、心からお悔やみ申し上げます。群馬県社会福祉協議会は、市町村社会福祉協議会とともに、被災地への支援に努めており、今後もできる限りの支援に努めてまいり所存であります。また、現在、我が国の福祉・医療は大きな変化の中にありますが、群馬県社会福祉協議会といたしましても、市町村社会福祉協議会、市町村民生児童委員協議会、社会福祉関係機関・施設・団体はもとより、ボランティア、NPOなど地域福祉を担う各種事業主体とも連絡を密にして、多くのひとびと、施設・機関、団体等のご参加をいただき、地域の福祉力を高め、だれもがともに支え合い安心して暮らせる群馬県をつくるために、役職員ともども努めてまいり所存でございます。皆様方のさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。微力ではありますが、これまで多くの皆様方により築かれてまいりました群馬県の地域福祉のさらなる推進に、誠心誠意努力してまいり所存でございますので、これからも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のあいさつとさせていただきます。

### ○新任ごあいさつ



この4月から、群馬県社会福祉協議会事務局長となり、7月からは、常務理事との兼任となりました。3月までは、県の職員として岩崎秋雄です。

常務理事兼事務局長 岩崎 秋雄

様々な人との関わりの中で、大切なことを学びました。それは、どんなときでも「相手の立場に立つ」という気持ちを忘れてはいけない、ということ。相手の立場に立つて接し、そして受け止め、何ができるかを考える、このことは、福祉の基本でもあるのではないかと考えています。社協の職員となって、立場が変わった訳ですが、これからも、この気持ちを忘れずに、仕事にあたりていきたいと思っています。

福祉に取り組んできました。時には、つらいことや限界を感じることもありますが、充実した時間であったと思っています。

微力ではありますが、少しでも皆様のお役に立てるよう、頑張っていきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 素敵な笑顔

夏号表紙

社会人2年目という櫻井勇基さんは、伊勢崎市にある地域活動支援センターに勤務しています。相談員として日々利用者さんと接するかたわら、休日は家族や友人と音楽を楽しんでいます。



※このお仕事に就かれたきっかけは？

高校生の時に病院でボランティアをしていて、ソーシャルワーカーという仕事があることを知り、興味を持ちました。最初は病院のワーカーになりたいと思っていたのですが、次第に病院という治療する場よりも、地域や生活する場でサポートしたいと思うようになり、今の職場に就職したんです。

※仕事をしている感じはどう？

もともと人と接するのは好きでしたが、よりいっそう好きになりましたね。利用者さんとちよつとしたことで笑い合えたり、悩んでいる時に寄り添えたりすることがこの仕事の魅力だと感じています。とても楽しいです。

※趣味はギターというのですが？

両親が音楽好きなので、昔

※自身の目標と、これから福祉職を目指す方へメッセージを。

僕はまだまだ勉強不足なので、これからのいろんな人と出会って、いろんなことをやらせていただく中で、もつとたくさんの人が笑顔になれるように頑張りたいと思います。福祉職というと、助ける、というイメージが強いと思うんですけど、実際は皆さんに幸せになつてもらうためにサービスを提供する仕事です。少しでも興味のある方は、ぜひ一度現場を見てみてください。福祉の現場を若い人たちが一緒に盛り上げられればいいな、と思います。

今回の取材は、センター系列の喫茶ガーデンタイムで行いました。空はあいにくの雨模様でしたが、櫻井さんはとても爽やかな青年で、優しい笑顔が印象的でした。利用者さんの心に寄り添える相談員を目指して頑張ってくださいね。